

博報堂生活総合研究所

「こども20年変化」調査結果を発表

～ 1997年 → 2007年 → 2017年 ～

博報堂生活総合研究所は1997年から10年毎に、小学4年生から中学2年生の子どもたちを対象に、ほぼ同じ質問内容のアンケート調査を続けてきました(1997年・2007年・2017年の3時点で実施)。

この20年間、日本では少子化の進行、共働き世帯の増加、教育の脱ゆとり転換、デジタル環境の向上、東日本大震災の発生などさまざまな事象が生じ、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。

こうしたなかで、子どもたちの意識や行動はどう変わったのか。また変わっていないのか。調査からは、自分の置かれた環境を肯定的にとらえ、大人や友人との良好な関係のなかでまじめに生きる姿や、新商品・情報の流行への関心が低下しつつも、興味があることの情報取得には前向きな姿など、様々な子どもたちの実像が見えてきました。本レポートでは、調査結果から「速報」として、変化が顕著であったポイントを中心にご報告します。

【調査概要】 ◆調査手法：訪問留置自記入法 ◆調査対象：小学4年生～中学2年生の男女 ◆調査時期：2017年2月15日～3月21日
◆調査地域：首都40Km圏 ◆調査人数：首都圏800人 ◆1997年・2007年の調査概要はP.7参照

1997年 → 2017年：「こども20年変化」ポイント

【自己認識】豊かさ実感&幸福度、過去最高に

自分は幸せな方だ 97年 77.6% → 17年 **91.4%** (+13.8pt) ※過去最高
自分のくらはしは豊かな方だ 97年 65.7% → 17年 **82.0%** (+16.3pt) ※過去最高

【価値観】重視することで、勉強が遊びを逆転

遊びより勉強が大事 97年 36.5% → 17年 **58.1%** (+21.6pt) ※過去最高
勉強より遊びが大事 97年 62.7% → 17年 **41.9%** (▲20.8pt) ※過去最低

【家族との関係】尊敬度合いでお母さんがお父さんを逆転

お母さんは「尊敬する人」 97年 54.8% → 17年 **68.1%** (+13.3pt) ※過去最高
お父さんは「尊敬する人」 97年 59.7% → 17年 **61.5%** (+1.8pt) ※ほぼ変わらず

【家族との関係】どんどん近づく親子の距離

自分の部屋にお父さんやお母さんが入ってくるのはいやだ 97年 46.0% → 17年 **36.6%** (▲9.4pt) ※過去最低
家族に言っていない秘密がある 97年 50.3% → 17年 **34.3%** (▲16.0pt) ※過去最低

【大人との関係】大人から叩かれた経験は過去最低に

お母さんにぶたれたことがある 97年 79.5% → 17年 **48.6%** (▲30.9pt) ※過去最低
学校の先生になぐられたことがある 97年 18.9% → 17年 **1.6%** (▲17.3pt) ※過去最低

【友達との関係】友達の数は過去最高に

友達の数(平均値) 97年 50.7人 → 17年 **77.3人** (+26.6pt) ※過去最高

【お金・消費】お小遣いをもらっている子は減少。新商品への興味は低下

お小遣いをもらっている 97年 78.9% → 17年 **63.0%** (▲15.9pt) ※過去最低
新しい商品が出るとすぐほしくなることが多い 97年 56.4% → 17年 **41.6%** (▲14.8pt) ※過去最低

【情報環境】流行への興味は低下。気になる情報は自分で調べる

情報は、はやっているものを人よりも早く知りたい方だ 97年 63.8% → 17年 **45.9%** (▲17.9pt) ※過去最低
興味のある話は人に聞くより自分で調べる 97年 38.8% → 17年 **63.3%** (+24.5pt) ※過去最高

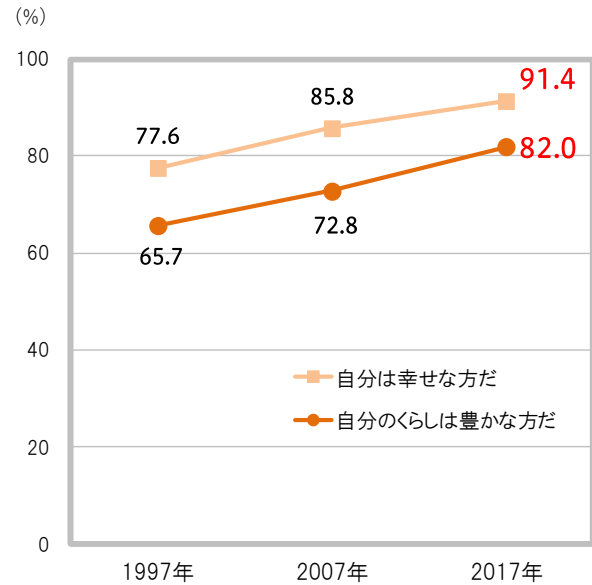
【情報環境】デジタル機器・サービスは急速に浸透(2017年のみ)

インターネットを利用する時のデバイスは、
スマートフォン **56.4%**、ゲーム機 **36.4%**、パソコン **33.8%**、タブレット **31.6%**の順
ネットサービス利用度は、検索サイトを利用する **86.6%**、動画共有サイトで動画を検索・閲覧する **80.5%**の順

【自己認識】豊かさ実感&幸福度、過去最高に

子どもたちに自分のくらしの豊かさや自分の状況に対する幸福度の自己認識を聞いたところ、「自分は豊かな方だ」が82.0%、「自分は幸せな方だ」が91.4%となりました。

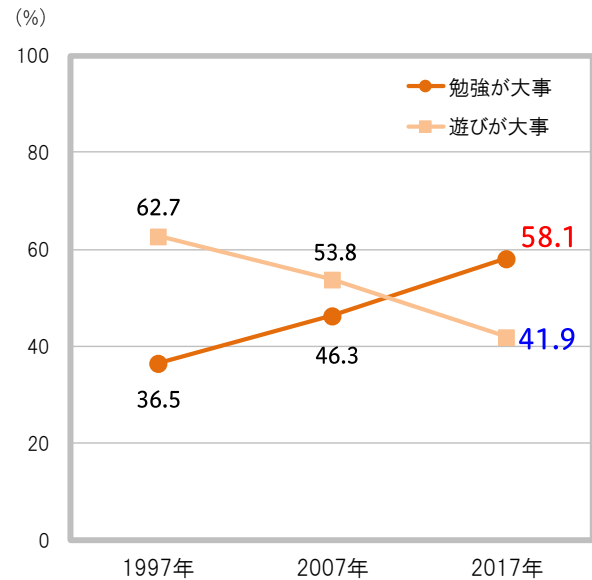
どちらも今回が過去最高となっており、子どもたちの豊かさ・幸せの実感が高まっていることがうかがえます。



【価値観】重視することで、勉強が遊びを逆転

子どもたちに、「遊びと勉強とではどちらの方が大事だと思うか」を二者択一で質問したところ、「勉強が大事」が58.1%、「遊びが大事」が41.9%となりました。

今回初めて、「勉強」が「遊び」を上回り、「勉強」は過去最高となりました。

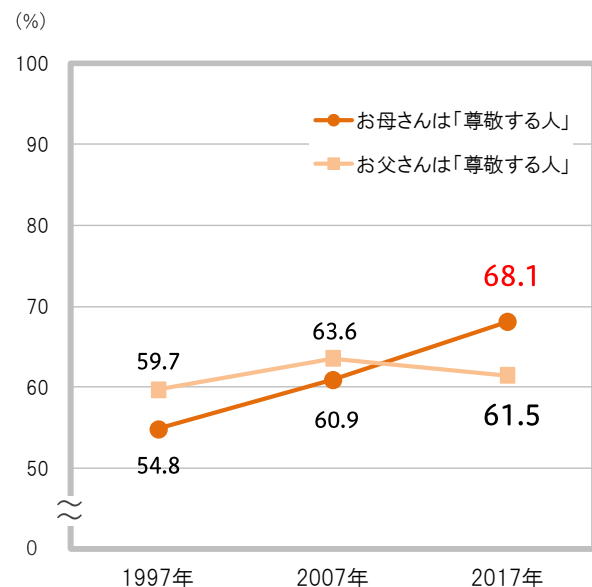


【家族との関係】尊敬度合いでお母さんがお父さんを逆転

子どもたちに両親との関係について、お父さん・お母さんがそれぞれ「尊敬する人」「友達のような人」「どうでもよい人」のどれにあてはまるかを聞いたところ、お父さんについては「尊敬する人」が61.5%と、2007年から若干減少しました(3時点ではほぼ横ばい)。

一方で、お母さんについては「尊敬する人」が68.1%と、過去最高となりました。

その結果「尊敬する人」については、今回初めて、お母さんがお父さんを上回りました。

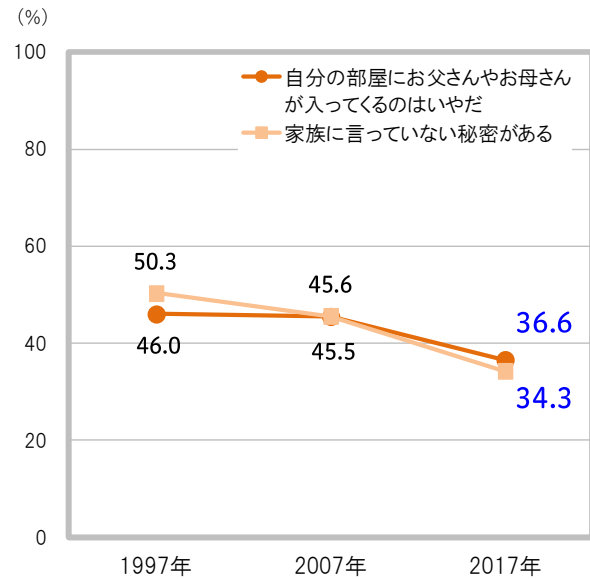


【家族との関係】 どんどん近づく親子の距離

子どもたちに家族との関係について聞いたところ、「自分の部屋にお父さんやお母さんが入ってくるのはいやだ」が36.6%（※）、「家族に言っていない秘密がある」が34.3%となりました。

どちらも今回が過去最低となっており、子どもと家族との関係・距離感が近づいている様子がうかがえます。

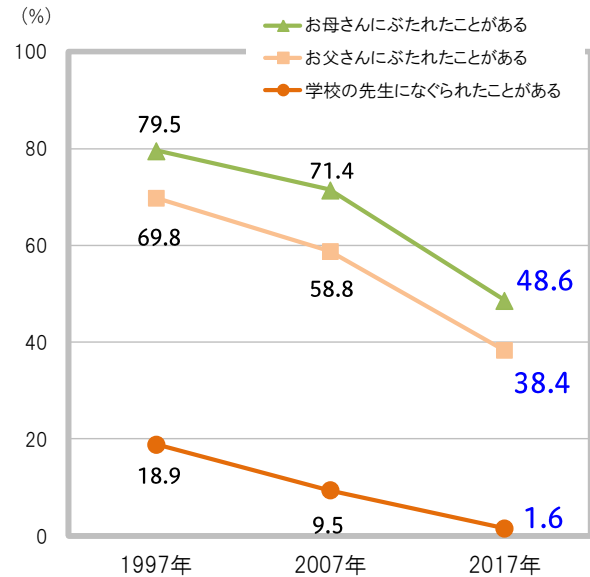
※自分用の部屋を持っている子どものみに聴取、2017年はn=636人



【大人との関係】 大人から叩かれた経験は過去最低に

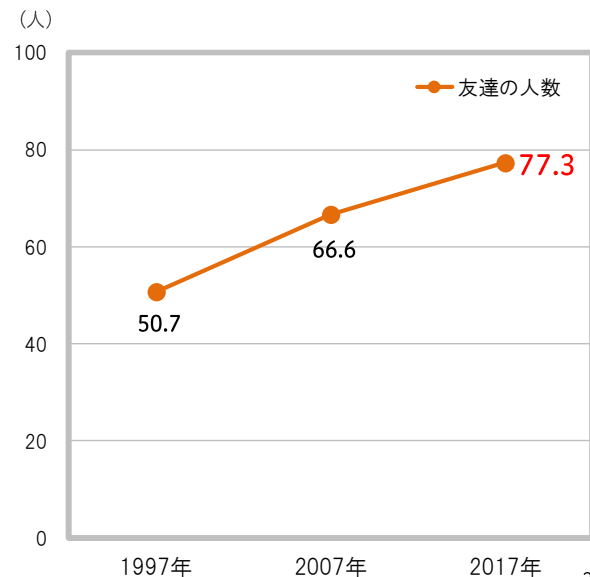
子どもたちにお母さんやお父さん、学校の先生から叩かれた経験の有無を聞いたところ、「お母さんにぶたれたことがある」が48.6%、「お父さんにぶたれたことがある」が38.4%、「学校の先生になぐられたことがある」が1.6%となりました。

いずれも今回が過去最低となり、「お母さん/お父さんにぶたれたことがある」については、今回初めて50%を下回りました。



【友達との関係】 友達の数 は過去最高に

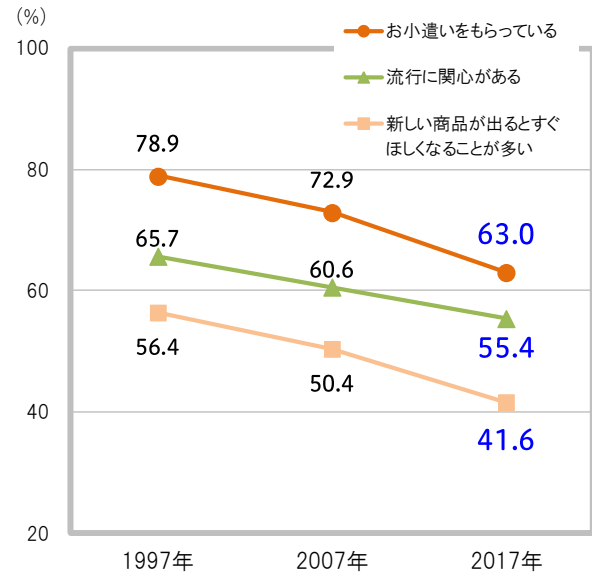
子どもたちに、友達の人数について具体的な数字で回答してもらったところ、平均人数は77.3人で今回が過去最高となりました。



【お金・消費】 お小遣いをもらっている子は減少。新商品への興味は低下

子どもたちにお小遣いをもらっているかどうかを聞いたところ、「もらっている」は63.0%と、今回が過去最低となりました。

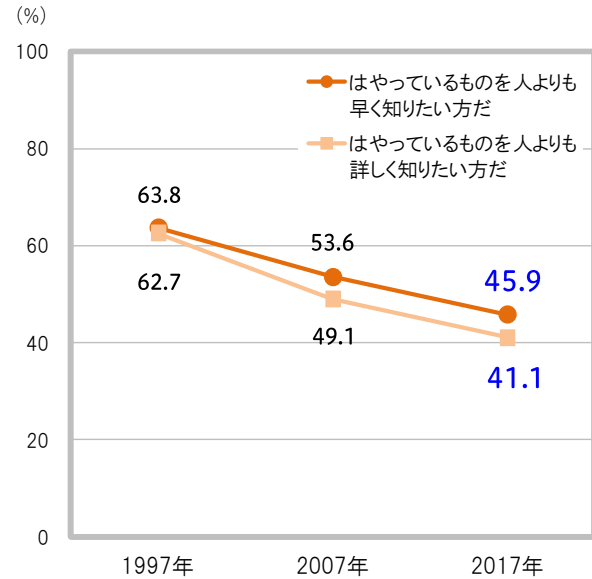
また新商品への関心について聞いたところ、「流行に関心がある」は55.4%、「新しい商品が出るとすぐほしくなることが多い」は41.6%となり、それぞれ過去最低となりました。



【情報環境】 流行への興味は低下。気になる情報は自分で調べる

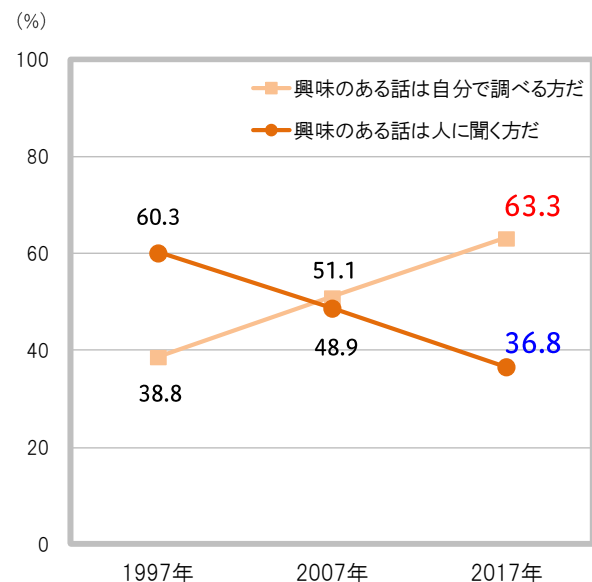
子どもたちに、情報への関心について聞いたところ、「はやっているもの(こと)を人よりも早く知りたい方だ」が45.9%、「はやっているもの(こと)を人よりも詳しく知りたい方だ」が41.1%となり、それぞれ過去最低となりました。

上述の「新商品への関心」に関する調査結果とも照らし合わせると、新商品や情報の流行に対して、あまり興味・関心を示さなくなった子どもたちの様子がうかがえます。



子どもたちに、「興味のある話は自分で調べる方か、人に聞く方か」を二者択一で質問したところ、「自分で調べる方」が63.3%、「人に聞く方」が36.8%となり、「自分で調べる方」は過去最高となりました。

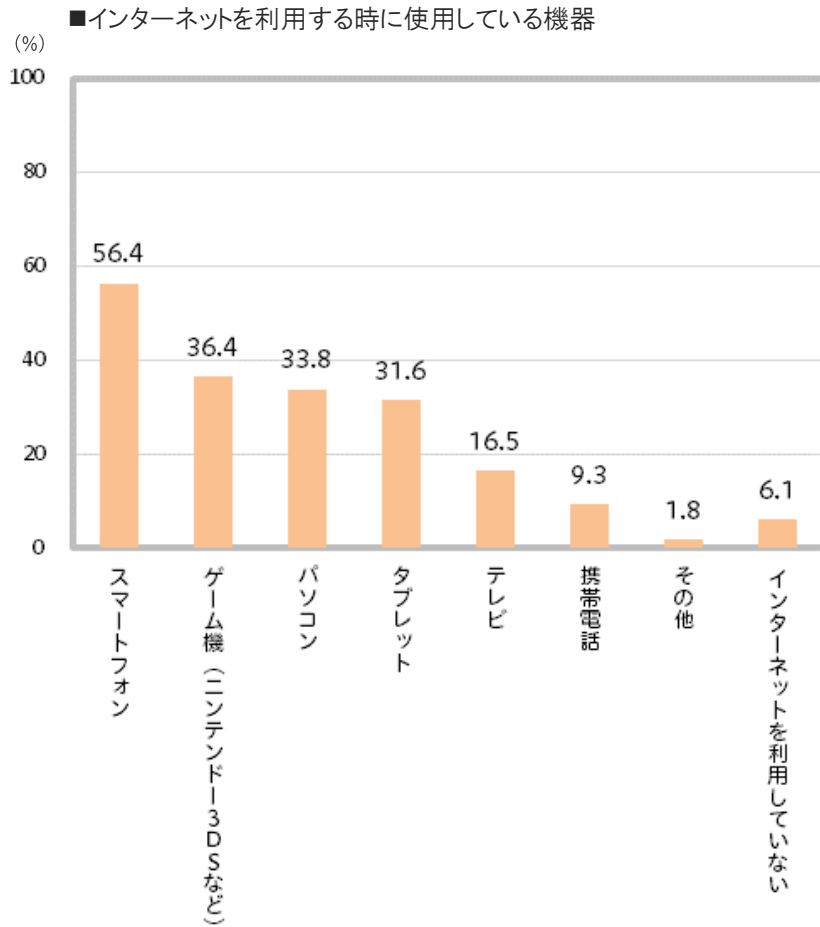
1997年から2007年にかけて両者は逆転しており、今回さらにその差が開くかたちとなりました。



子どもたちにインターネットを利用する際にどんな機器を利用しているかを聞いたところ、「スマートフォン」が最も多く56.4%、次いで「ゲーム機」36.4%、「パソコン」33.8%、「タブレット」31.6%となりました(自分所有・家族所有は問わず)。

子どもたちの間でも、すでにパソコンではなくスマートフォンを利用したインターネット接続が一般化してきていることや、ゲーム機を利用したネット接続の多さなどがうかがえます。

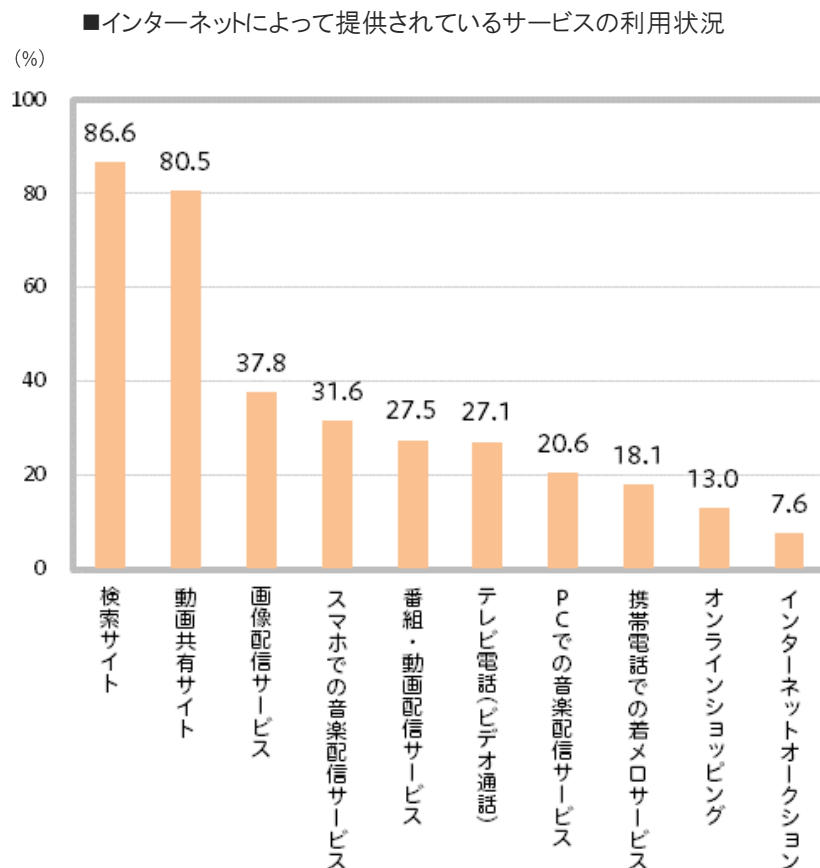
なお「インターネットを利用していない」は6.1%となりました。



子どもたちに、インターネットによって提供されている各種サービスについての利用状況を聞いたところ、「検索サイト」を利用しているとの回答は86.6%となりました。

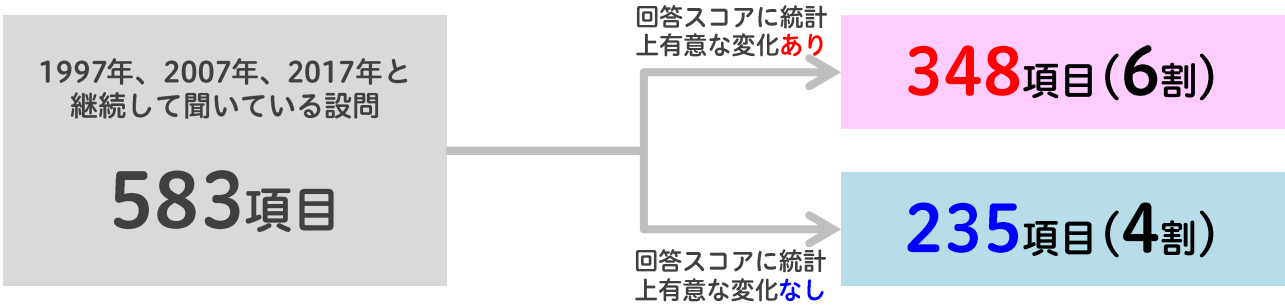
次いで、「動画共有サイト」が80.5%、以下、壁紙や待ち受け画面等の「画像配信」37.8%、「スマホでの音楽配信」31.6%などと続きました。

「オンラインショッピング」や「インターネットオークション」は比較的少なく、それぞれ13.0%と7.6%となりました。



(参考)各質問項目の変化について

- 「こども調査」を実施した1997年から2017年にかけて、継続して聴取している設問は583項目あります。
- そのうち、回答スコアが統計上有意に変化したといえる項目数は348項目(6割)となりました。
- 反対に、回答スコアに統計上有意な変化がなかった項目数は235項目(4割)となりました。



- 統計上有意に変化した項目のうち、回答スコアの変化量が大きかった質問分野は以下の通りです。
- 「情報環境」についての質問の回答スコア変化量が最も大きく、次いで「お金・消費」、「友達・家族関係」となっています。

	該当する質問項目数	質問1項目あたりの変化量 (1997→2017年)
情報環境についての質問	58項目	11.2pt
お金・消費についての質問	113項目	8.5pt
友達・家族関係についての質問	73項目	7.1pt

※個々の質問の変化量絶対値の総計を
質問項目数で割り戻して算出

(参考)1997→2017年であまり変わっていない項目の例

- 本リリース冒頭の「こども20年変化」のポイントでは、20年間で変化した部分に着目してお伝えしましたが、反対に、1997年から2017年にかけて、あまり大きな変化のなかった項目は、主に以下のものが見受けられました。
- 「明るい」という自己認識や彼氏・彼女の有無、結婚等の将来観については、20年間でそれほど変わっていない様子がうかがえます。

質問項目		1997年の回答スコア		2017年の回答スコア	変化量
自己認識	自分のイメージを表す言葉：明るい	71.7%	⇒	69.0%	▲2.7pt
自己認識	ふだんの行動は、だいたい他の人と同様にしている	78.9%	⇒	76.5%	▲2.4pt
友達・家族関係	特別な彼氏・彼女とよべる人がいる	9.2%	⇒	7.6%	▲1.6pt
将来・価値観	将来は結婚したいと思う	85.8%	⇒	86.4%	+0.6pt
将来・価値観	自分の将来は明るいと思う	90.9%	⇒	92.4%	+1.5pt

■ 2017年 子どもの生活に関する調査

- ・調査期間：2017年2月15日～3月21日
- ・調査対象：2017年3月31日現在で小学4年生～
中学2年生に在学する男女
- ・調査人数：800人

	男性	女性	合計
小学4年生	80	80	160
小学5年生	80	80	160
小学6年生	80	80	160
中学1年生	80	80	160
中学2年生	80	80	160
合計	400	400	800

■ 2007年 子どもの生活に関する調査

- ・調査期間：2007年6月18日～7月9日
- ・調査対象：2007年7月1日現在で小学5年生～
中学3年生に在学する男女
- ・調査人数：800人

	男性	女性	合計
小学5年生	80	80	160
小学6年生	80	80	160
中学1年生	80	80	160
中学2年生	80	80	160
中学3年生	80	80	160
合計	400	400	800

■ 1997年 子どもの生活に関する調査

- ・調査期間：1997年3月7日～3月31日
- ・調査対象：1997年3月31日現在で小学4年生～
中学2年生に在学する男女
- ・調査人数：1,500人

	男性	女性	合計
小学4年生	150	150	300
小学5年生	150	150	300
小学6年生	150	150	300
中学1年生	150	150	300
中学2年生	150	150	300
合計	750	750	1500

※いずれも、

- ・調査地域：首都40Km圏
- ・調査手法：訪問留置自記入法
- ・企画分析：博報堂生活総合研究所
- ・実施集計：株式会社東京サーベイ・リサーチ